

えほんだより

みるみる No.10

令和6年3月8日(金)
平田村立ひらたこども園

語り継ぐために...

東日本大震災から13年という年月が経ちました。お家の皆さまにとっても大変お辛いご経験だったことと思います。こども園のお友達は、幸いにもこの時には誕生していませんでしたが、今年初めの石川県能登半島地震の報道を目にし、それぞれに様々な思いを口にしていました。園内では毎月避難訓練を行っていますが、地震の際の「身の守り方」についてもしっかりと学んでいるところです。

13年が経ちテレビから流れてくる震災の映像は、大人にとっても息をのむ怖さを感じます。子供達に私たち大人が伝えていくべきことは、怖さを印象付ける映像ではなく、絵本などから語り継いでいく震災への関心なのもかもしれませんね。絵本からは「怖い」という印象ではなく、震災を経験した人達の思いを感じ取れるように思います。これからも、絵本を通して思いに寄り添える気持ちを育てていきたいですね。

寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになったこの頃。今年度もいよいよわずかとなりました。来年度へ向けみんなで少しずつ準備をしながら、残りの日々もおもいきり楽しみたいと思います。

今年度もこども園の読書活動におきまして、保護者の皆さまにはたくさんのご協力をいただきましたこと改めて感謝申し上げます。特に家読活動におきましては、絵本の貸し出しなどをご利用いただき、「絵本」を中心としたご家族の時間が貸し出し絵本の冊数分あったかと思うと、本当にうれしい気持ちでいっぱいです。昨年度は、約500冊の貸し出しがありました。本年度はなんと、約1300冊の貸し出し冊数でした。保護者の皆さまのご協力で子ども達の絵本への親しみも増し、気が付くと絵本を手に読みふけている姿があらこちらに見られます。来年度も「えほんのもり」「ぼけっと」で、絵本を手にしながらお話を楽しむ子ども達の姿が見られることを楽しみにしています。

ひらたこども園の読書活動「こなことあんなこと」

本年度の読書活動も、保護者の皆さまのご協力をいただきましたおかげで、様々な活動を展開することができました。本当にありがとうございました。子ども達だけでなく、職員自身も学びの多い1年とすることができました。1年間の活動をご報告いたします！



作:鈴木 邦弘
出版社:旬報社

震災関連の絵本はたくさんありますが、お友達だけでなく、お家の皆さんにもぜひ手にしていただきたい絵本をご紹介します。「いぬとふるさと」という絵本です。主人公は犬。犬目線で描かれたストーリーは、人間だけでなく被災したのは動物も一緒だったということを教えてくれます。震災で避難した埼玉でのこと、10年ぶりに帰郷して感じた磯の香り。動物も人間も同じ命。13年経った今だからこそ、子ども達と一緒にこの先読み続けていきたい、大切にしていきたい1冊です。



家読応援プロジェクト
絵本の貸し出し事業



お家の方々による
絵本の読み聞かせ
園内読み聞かせ会
「みるみるの会」



日常の絵本タイム



専門家を招いた園内読書
活動における職員研修



福島県主催読書活動推進事業
「ポスターセッション」参加

※職員自身の研修もあり、美りの多い1年でした。



絵本交換会
「絵本マルシェ」



お話しボランティア「夢工房」
絵本おはなし会



今年度1年間、様々な絵本と親しむ活動とおして改めて感じたことは、「人」という環境の大切さでした。どの活動においても子ども達が絵本の世界を楽しむ上で必要なのは大人の関わりだということを実感しています。保護者の皆様にご協力いただいたことで、多くの活動を展開することができましたこと、心より感謝申し上げます。次年度も子ども達の絵本との出会いに、どうぞご協力のほどお願いいたします。